

事業所名 字度発達支援事業所 ナチュファミ（児童発達支援）

公表日 令和 8 年 2 月 20 日

利用児童数 9 名（8世帯）

9 名 回収数

	チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応
環境・ 体制 整備	1 こどもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	9					
	2 職員の配置数は適切であると思いますか。	9					
	3 生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	8				1	構造化による自立支援を継続しつつ、玄関の段差は『空間の切り替わり』を学ぶ療育の場として安全に活用し、情報の可視化にも努めます。
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、こども達の活動に合わせた空間になっていると思いますか。	9					
適切 な支 援の 提供	5 こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	9					
	6 事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	9					
	7 こどものことを十分理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、児童発達支援計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	9					
	8 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	7				2	領域に基づいた支援のねらいがより伝わるよう、計画書の説明時に具体例を交え、日々の活動との繋がりを丁寧にお伝えしていきます。
	9 児童発達支援計画に沿った支援が行われていると思いますか。	9					
	10 事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	8				1	反復による習得と新しい刺激のバランスを考慮したプログラム構成を、毎月の予定表などを通じて分かりやすく発信してまいります。
	11 保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、その他地域で他のこどもと活動する機会がありますか。	6	1			2	地域行事への参加や公園での交流機会を段階的に計画し、お子様が社会と触れ合える取組を具体化していきます。
保護 者へ の説 明等	12 事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	9					
	13 「児童発達支援計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	9					
	14 事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	7	1			1	保護者様同士の繋がりや学びの場へのご期待に応え、座談会や勉強会などの交流・研修機会を早期に企画し、ご案内いたします
	15 日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達の状況について共通理解ができていますか。	8	1				日々の情報共有ツールでの連絡や、親子活動などでの対話の質を高め、ご家庭での不安にもより深く寄り添いながら、共通理解を深める連携を強化します
	16 定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	9					
	17 事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	8	1				お子様の『やりたい』という気持ちを尊重した支援を徹底し、自己選択の場を増やすとともに、その様子を積極的にお伝えします
	18 父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	5	2			2	保護者会などの定期開催、きょうだい児も参加できる行事の検討など、ご家族全体を支えるサポート体制を拡充してまいります
19 こどもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、こどもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	9						

	20	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	9				
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されていますか。	7	1		1	評価結果や改善状況について、HP掲載に加え、お便りの配布や掲示板の活用により、全ての保護者様へ確実にお届けする体制を整えます。
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	8	1			大切な情報の扱いについて職員研修を再徹底し、写真等の使用ルールを含め、より一層の安心感を持っていただけるよう管理を厳格化します。
非常時等の対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	6	1		2	各種訓練の実施内容を写真付きで掲示・報告し、事業所における安全対策の取組を可視化して、安心感に繋げてまいります。
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	7			2	避難経路や訓練の様子を改めて周知し、非常時におけるご家族との連携体制をより明確に共有してまいります
	25	事業所より、子どもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	8			1	お子様の安全を守るための具体的な計画（安全計画）をより分かりやすく公開し、日頃の安全管理体制について周知を徹底します
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	9				
満足度	27	子どもは安心感をもって通所していますか。	9				
	28	子どもは通所を楽しみにしていますか。	9				
	29	事業所の支援に満足していますか。	9				保護者様の日頃からのご協力があつてより良い支援が行えますことに、感謝いたします。

## 公表 事業所における自己評価結果

公表日

令和 8 年 2 月 20 日

事業所名	児童発達支援事業所ナチュファミ (キッスナチュ)		公表日			
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	○		現在、利用定員に対して十分な活動スペースを確保できています。今後も安全面に配慮しながら、適切な環境を継続して維持していきます。	今後も利用状況や支援内容に応じて環境の見直しを行い、安全で安心できる空間づくりに努めていきます。
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	○		指定基準を遵守するだけでなく、お子様の特性や支援の度合いに応じ、手厚い人員配置を行えるよう調整しています。	突発的な欠勤や緊急時にも対応できるよう、さらに体制を強化します。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	○		・現在バリアフリーが必要な利用児童はいないが、段差など視覚的に分かるように支援の一環として工夫している。	・玄間に段差があるが、単に「危ない」で終わらず、段差を患患して歩くことを「身体のコントロール(粗大運動)」の支援プログラムの一環として位置づけています。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	○		常に清潔な環境を保ち、季節感のある装飾を施すなど、お子様がリラックスして活動に集中できる空間づくりを行っています。	お子様の感覚等に配慮し、照明の明るさなど微調整を行っています。
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	○		・言語活動、個別での対応をする部屋を決めている。・一人になれる空間など、その都度提供している。	限られたスペースの中で、より多くのお子様で「自分だけの安心できる場所」を持てるようレイアウトを工夫しています。
業務改善	6	業務改善を進めるための PDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	○		職員会議にて各担当が目標の進捗を報告し、全員で振り返りを行うことで、組織一丸となったPDCAサイクルの構築に努めています。	目標設定をより具体的に進められているか客観的に把握する為に全体ミーティングでの報告を行っています。
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		保護者の皆様の率直なご意見を真摯に受け止め、支援内容や運営の改善に反映させています。	アンケート結果だけでなく、日々の送迎時の会話から汲み取った小さなニーズも組織で共有する仕組みを強化していきます。
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		・活動の振り返りや子どもの現在の状況など、職員間で情報を共有し、日々改善に努めている。	経験の浅い職員も意見を出しやすいよう毎日の終礼を通じ、現場職員が気づいた改善点を吸い上げ、迅速に支援の質向上へつなげています。
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	○		内部評価をベースに、客観的な視点を取り入れた振り返りを行っています。	・把握できていないが、第三者評価受審の時期や具体的な評価機関について情報収集を行い、客観的な評価を受ける体制を構築していきます。
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	○		法人内外の研修に積極的に参加し、療育技術や知識を習得できる環境を整え、職員の専門性向上を図っています。	受講した研修の内容を事業所内で報告書として共有し、チーム全体で対話する機会を増やしていきます。
適切な+	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	○		事業所の特色を活かした支援プログラムを策定し、HP等を通じて透明性の高い情報公開を行っています。	プログラムの内容が保護者に分かりやすく伝わるよう、図解を用いたりした説明を考えていきます。
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	○		個別アセスメントに基づき、お子様の発達段階と保護者の願いを丁寧にすり合わせた個別支援計画を作成しています。	長期的な視点(将来の自立)を見据えた目標設定ができるよう、アセスメント項目の精査を継続します。
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	○		児発管だけでなく、直接支援を行う全職員が検討会議に参加し、多角的な視点から「お子様の最善の利益」を追求しています。	会議の効率化を図り、より深いケーススタディ(事例検討)に時間を割けるよう工夫します。
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	○		作成した計画書は全職員で読み合わせを行い、日々の支援において一貫した対応ができるよう徹底しています。	支援のズレが生じないよう、情報共有システムの導入をし、全職員が閲覧できるようにしています。
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	○		フォーマルな検査結果に加え、自由遊びの中での行動観察など、多面的なアセスメントを実施しています。	評価指標の統一化を図り、どの職員が担当しても客観的で正確な記録が残せるようトレーニングを継続します。
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」「本人支援」「家族支援」「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	○		ガイドラインに沿った領域を各関係機関やご家庭との連携を行いながら、専門スタッフも一緒に個別の目標を策定し、更新しています。	今後も、各関係機関やご家庭との連携を行いながら、細やかな支援内容を一緒に設定していきたいと思います。

関係機関や保護者との連携	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	○	毎日の活動記録を詳細に残し、週単位・月単位での振り返りを行うことで、支援の有効性を確認しています。	記録の質を向上させるとともに、事務作業の効率化を図り、直接支援の時間を最大化します。
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	○	定期的なモニタリングを通じ、お子様の成長に合わせた目標の修正と計画のアップデートを適切に行っています。	状況の変化が激しい場合は、期間を待たず柔軟に見直し会議を設定する体制を維持しています。
	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	○	担当者会議には、日頃の様子を最もよく知る担当職員が参加し、現場の視点から意見を伝えています。	会議で得た知見を、他の職員にもフィードバックし、事業所全体の知識共有に今後もつなげていきます。
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	○	各関係者と連携を取り、いろんな角度からお子様を支える体制を整えています。	近隣の医療機関や専門機関とのネットワークをさらに広げ、緊急時の対応力も強化していきます。
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	○	幼稚園や保育園と連携を通じて支援内容等の情報交換を行い、一貫した支援が受けられるようインクルージョンを推進しています。	園との連携を、より深いレベルで相互理解できるような場を模索していきたいと思えます。
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	○	・園と連携を図りながら、統一した情報を小学校へ共有している。	・把握できていない職員もいたため、小学校への円滑な引き継ぎプロセスの詳細を再確認し、漏れのない情報共有体制を確立します。
	28	(28～30は、センターのみ回答) 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。			
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。			
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。			
	31	(31は、事業所のみ回答) 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。	○	・地域の会議等に出席させていただき顔の見える関係づくりと共に連携を図っている。	・把握できていない職員もいたため、連携を図った場合の共有と周知を徹底してまいります。
32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	○	お子様が通う園での活動を尊重し、地域社会との接点を大切にしています。	・今後、交流の機会を設けていきたい。・利用児は各園に通っているが、地域での交流も今後設けていきたい。公園での合同遊びや地域行事への参加など、具体的な交流機会の創出を計画的に進めていきたいと思えます。	
33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達状況や課題について共通理解を持っているか。	○	情報共有ツールを活用し、ご家庭と事業所での様子を共有しています。	課題についても前向きな視点で共有し、保護者様と共に歩むパートナーシップをより深めていきます。	
34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	○	日々の会話の中で育児相談に応じ、必要な情報提供を行っています。	・今後、取り入れていきたい。勉強会やペアレント・トレーニング等の開催を検討し、保護者様が学び合える場を生じていきます。	
保護者への説明等	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	○	契約時に重要事項説明書を用い、利用料金やルールについて納得いただけるまで丁寧な説明を行っています。	制度改正時など、変更点が生じた際にも迅速かつ分かりやすい説明資料を配布します。
	36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	○	計画作成前に必ず面談を行い、保護者様の思いやお子様を最優先に反映させるよう努めています。	お子様本人の「やりたい」という気持ちを汲み取るアプローチをさらに工夫します。
	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	○	計画案を提示し、具体的な支援方法について同意を得た上で支援を開始することを徹底しています。	専門用語を避け、誰にでも分かりやすい言葉で支援内容を説明するよう心がけます。
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	○	悩み事がある際は、いつでも個別に面談できる体制を整え、心の拠り所となれるよう努めています。	相談しやすい雰囲気づくりを継続し、必要に応じて外部の専門機関への橋渡しもサポートします。
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	○	保護者同士が情報交換できる場（親子活動等）を設け、保護者さま同士で交流できる機会を設けています。	きょうだい児への支援についても、ニーズを把握しながら具体化を検討します。
	40	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	○	ご意見をいただいた際のフローを明確化して職員間で周知しています。	ご相談や要望を早期にキャッチできるようなコミュニケーションを重視してまいります。
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	○	定期的なお便りやSNSを通じ、お子様たちの活動の様子を生き生きと伝えています。	プライバシー保護を徹底した上で、写真等を用いたより伝わりやすい情報発信を検討します。

45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	○	各種マニュアルを完備し、いざという時に備えています。	・把握できていない。訓練の実施記録を整理し、マニュアルの内容が職員に完全に浸透しているか定期的に確認を行います。
46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	○	災害時でも支援を継続できるようBCPを作成し、避難訓練を定期的の実施しています。	・把握できていない。近隣の避難所との連携確認や、災害時備蓄品の定期点検・更新をスケジュール化します。
47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	○	入所時に健康状態や既往歴を詳細に確認し、職員間で情報を共有して安全を確保しています。	予防接種の更新情報や体調の変化を、情報共有ツール等で常に最新の状態に保つよう促します。
48	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	○	・現在、食物アレルギーの利用児はいませんが、必要に応じて対応していく。	今後アレルギーのあるお子様を受け入れる際、主治医の指示書に基づく誤食防止マニュアルを再整備していきます。
49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	○	毎日の安全点検を実施し、遊具や設備の破損がないか確認しています。	・把握できていない。安全計画の具体的内容を改めて整理し、全職員が共通の危機意識を持てるよう研修を強化します。
50	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	○	送迎時の安全確保や災害時の連絡網について、保護者様へ事前の説明を行っています。	・把握できていない。安全計画が事前説明のみになっているので、より分かりやすく保護者に公開・周知し、家庭との連携を強固にします。
51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	○	「ヒヤリハット」を積極的に報告し、事故が起きる前に原因を取り除く文化を醸成しています。	報告された事例の分析を深め、単なる注意喚起ではなく「物理的な対策」に落とし込みます。
52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	○	虐待防止マニュアルを確認し、不適切な関わりがないか職員同士で相互チェックを行っています。	・把握できていない。虐待防止研修の受講状況を把握し、未受講者がいないよう計画的に研修を組み込みます。
53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	○	身体拘束を原則行わない方針を徹底し、やむを得ない場合の要件を整理しています。	・把握できていない。法令に基づく身体拘束を確認し正しい知識の周知と記録の徹底を図ります。